

## 第2章 直方市の概況

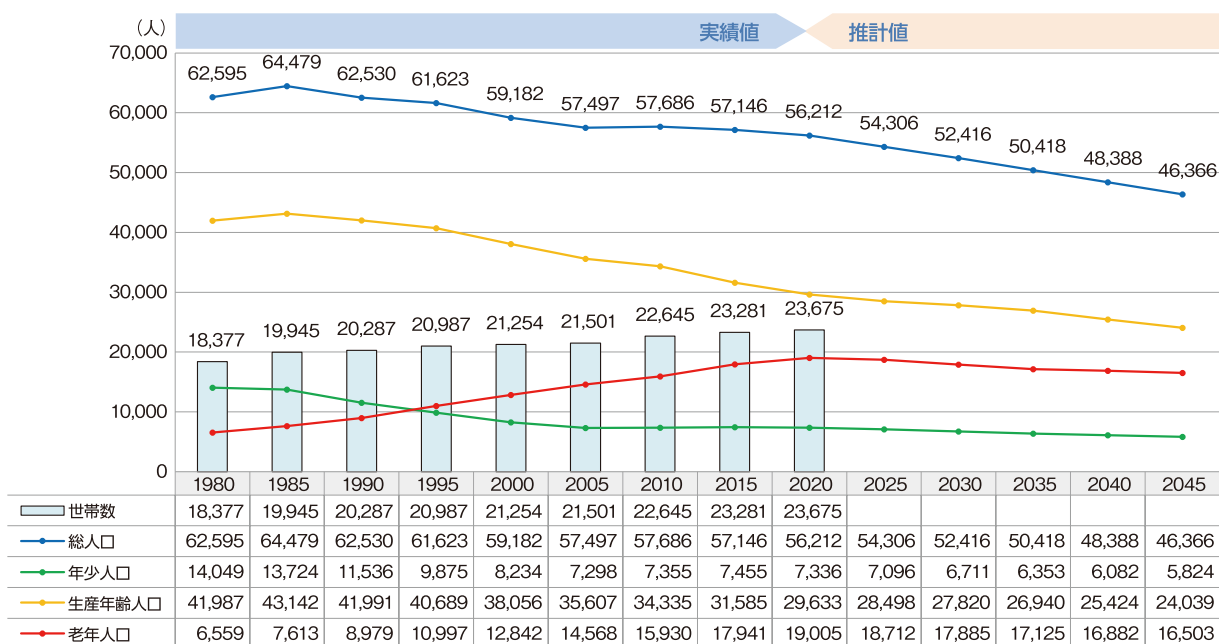
### 1. 沿革

本市の沿革は、市町村制施行の明治22年に直方町と山部村が合併して直方町が誕生し、大正15年の直方町と新入村、頓野村、下境村、福地村の合併後、昭和6年に県下で9番目の市制を施行しました。その後、昭和30年に植木町と合併し、現在の直方市となっています。

### 2. 人口

本市の人口は、1985(昭和60)年をピークに減少傾向にあり、2020(令和2)年には、ピーク時よりも8,267人少ない、56,212人となっています。一方、世帯数は一貫して増加傾向にあり、2020(令和2)年は23,675世帯となっています。

図表 2-1 人口の推移



注) 2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(2018年3月公表)に基づく推計値。世帯数は実数値のみ  
資料) 総務省「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」

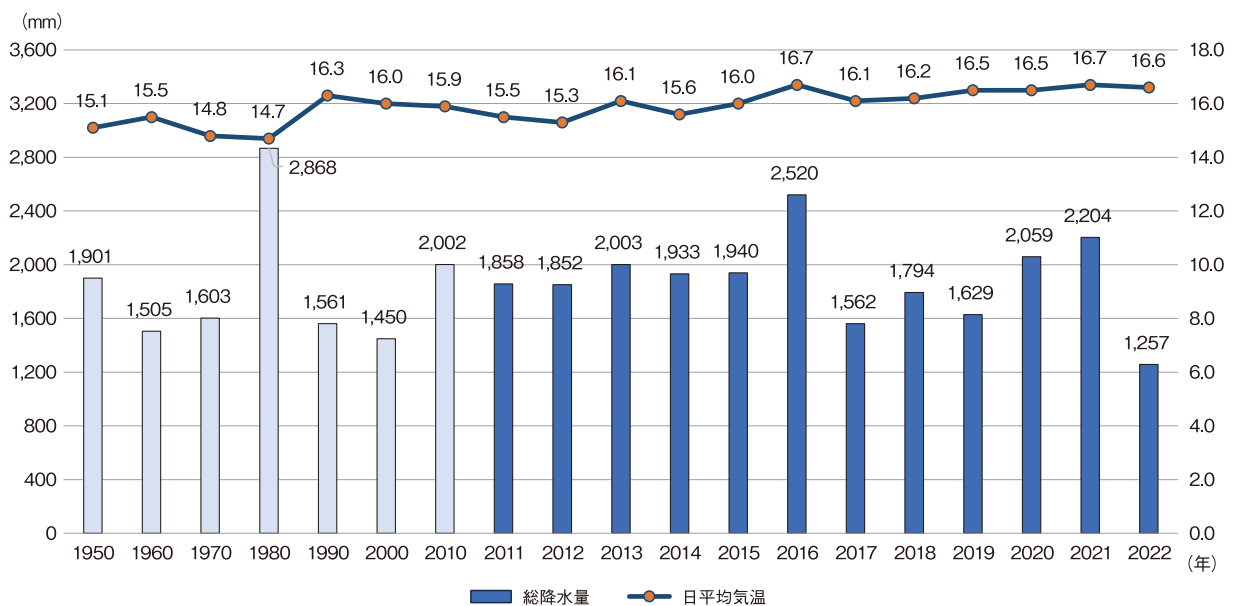
### 3. 気候・自然・土地利用

#### ① 気 象

本市は日本海型気候区に分類され、気候は概ね穏やかで、比較的温暖な気候に恵まれています。しかし、地形的には山地に囲まれた盆地様の立地にあるため、寒暖の差が激しいなど内陸型気候区の特徴も合わせ持っています。

直方市近郊（飯塚観測地点）の年間平均気温（日）は、1950（昭和25）～1980（昭和55）年代は14℃台～15℃台で推移していましたが、1990（平成2）年以降上昇し、概ね15℃台後半から16℃台で推移しています。また、年間総降水量は年によってばらつきがありますが、2013（平成25）年～2022（令和4）年の10年間の平均は1,890mm/年となっています。

図表 2-2 直方市の1年間の総降水量ならびに日平均気温の推移



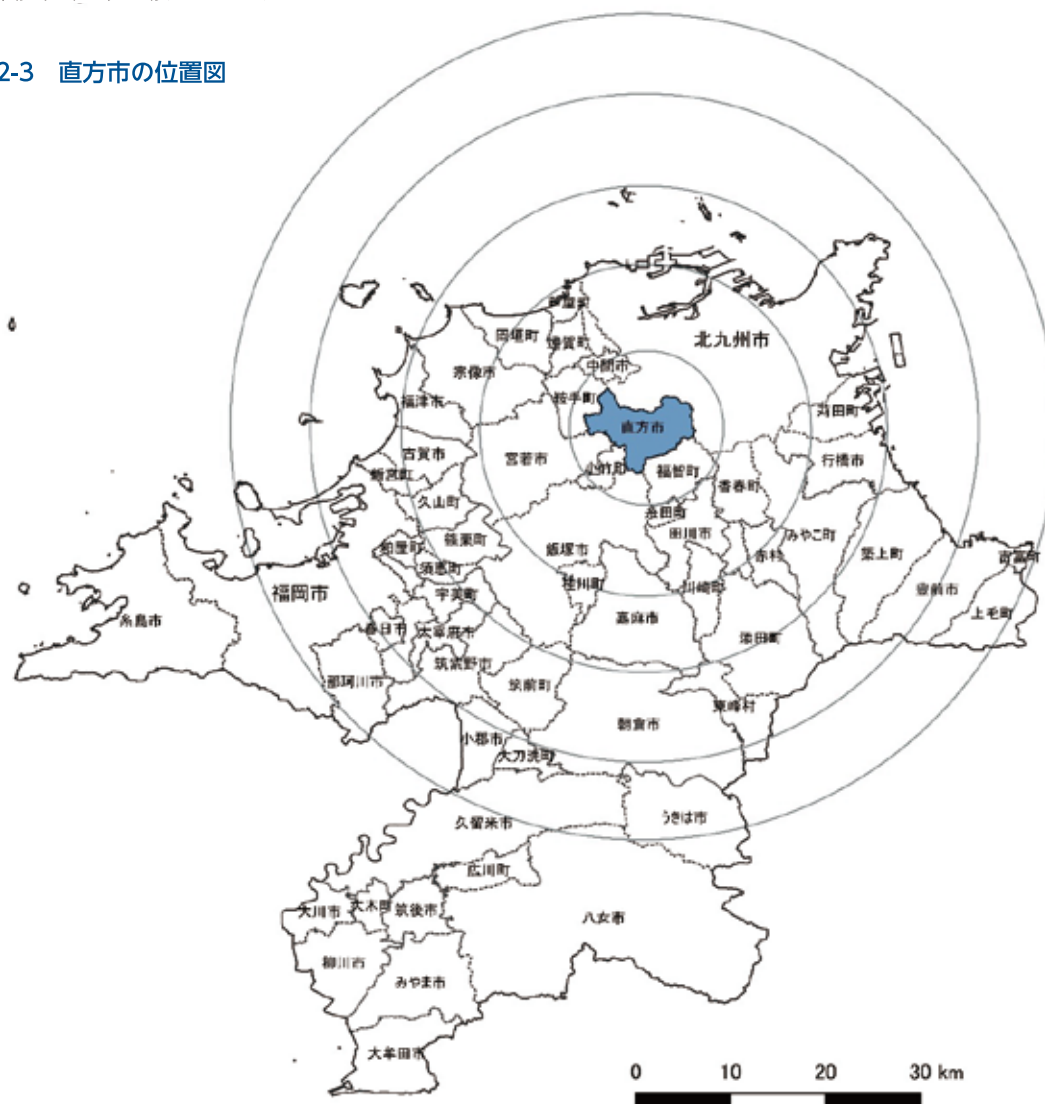
注) 飯塚観測地点のデータ

資料) 気象庁ウェブサイト「過去の気象データ検索」 <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

## ② 位置・地勢

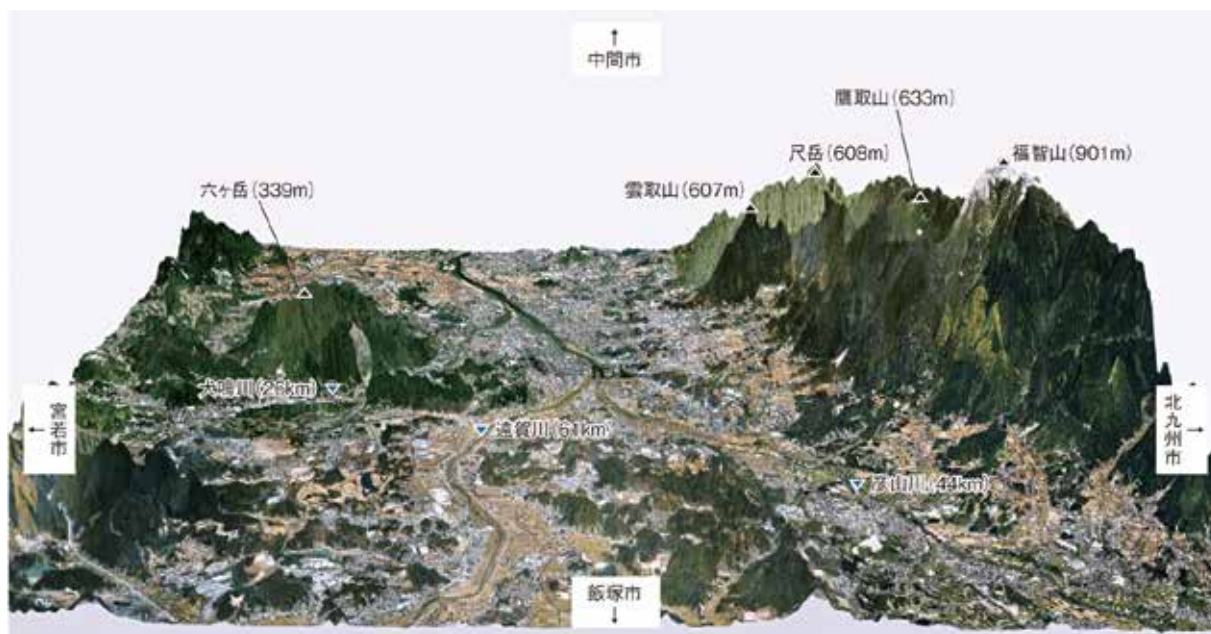
本市は、九州最北部を占める福岡県の北部にあって、遠賀川に沿って開ける筑豊平野のほぼ中央に位置しています。市域面積は61.76km<sup>2</sup>で、東西11.56km、南北9.45kmの広がりをもちます。市の東側は、福智山山系で、北九州市小倉南区と接し、西は、宮若市と接しています。また、南は、田川郡福智町、飯塚市、鞍手郡小竹町と、北は北九州市八幡西区、鞍手郡鞍手町と境を接しています。

図表 2-3 直方市の位置図



資料) 国土交通省国土数値情報ダウンロードサイトを元に作成  
[https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v2\\_4.html](https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v2_4.html)

図表 2-4 本市の全体像

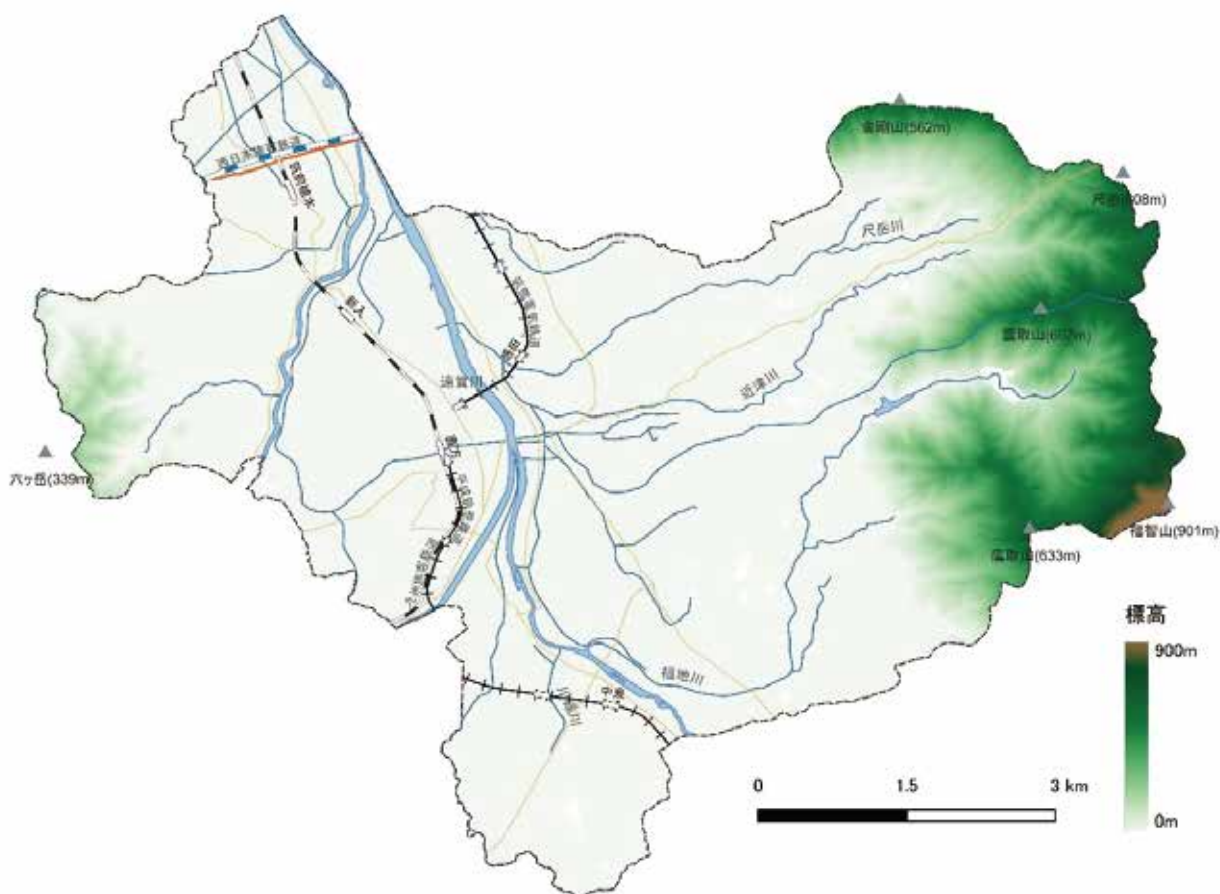


資料) 国土地理院「電子国土基本図(オルソ画像)」 「基盤地図情報(数値標高モデル)」を加工して作成

### ③ 地象・水象

本市は、福岡県第2の河川である遠賀川が流れて馬蹄形状に作った筑豊盆地の入り口部分に位置しています。本市中央部には遠賀川が北流し、中心市街地の南側では南東方向から流入した彦山川が、その少し下流部の中心市街地の北側では西方向から流入した犬鳴川が合流しています。これら河川の両岸には低地が形成され、その周辺部には比較的広い段丘や丘陵地が続いています。さらにその後背部には山地が控えており、特に本市東部の北九州市との境界地域は、福智山(900.8m)を主峰に、鷹取山(633.0m)、尺岳(608.0m)、雲取山(607.0m)等からなる福智・鷹取山地がみられます。

図表 2-5 地象・水象

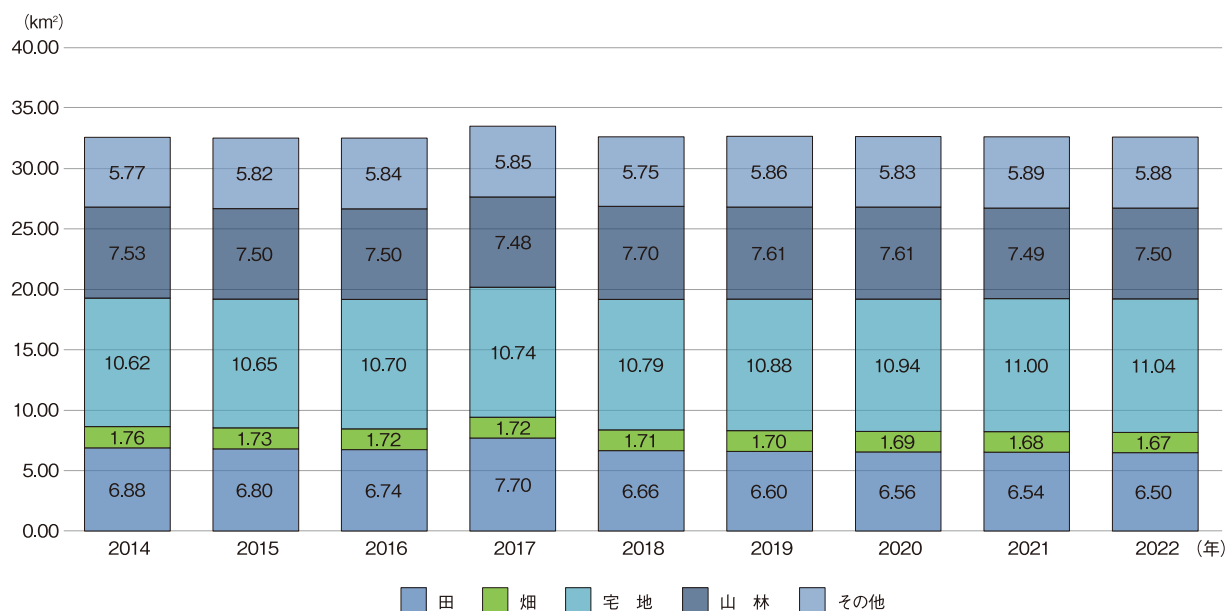


資料) 国土交通省国土数値情報ダウンロードサイトを元に作成 (2009年5月1日時点)  
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-G04-a.html>

## ④ 土地利用

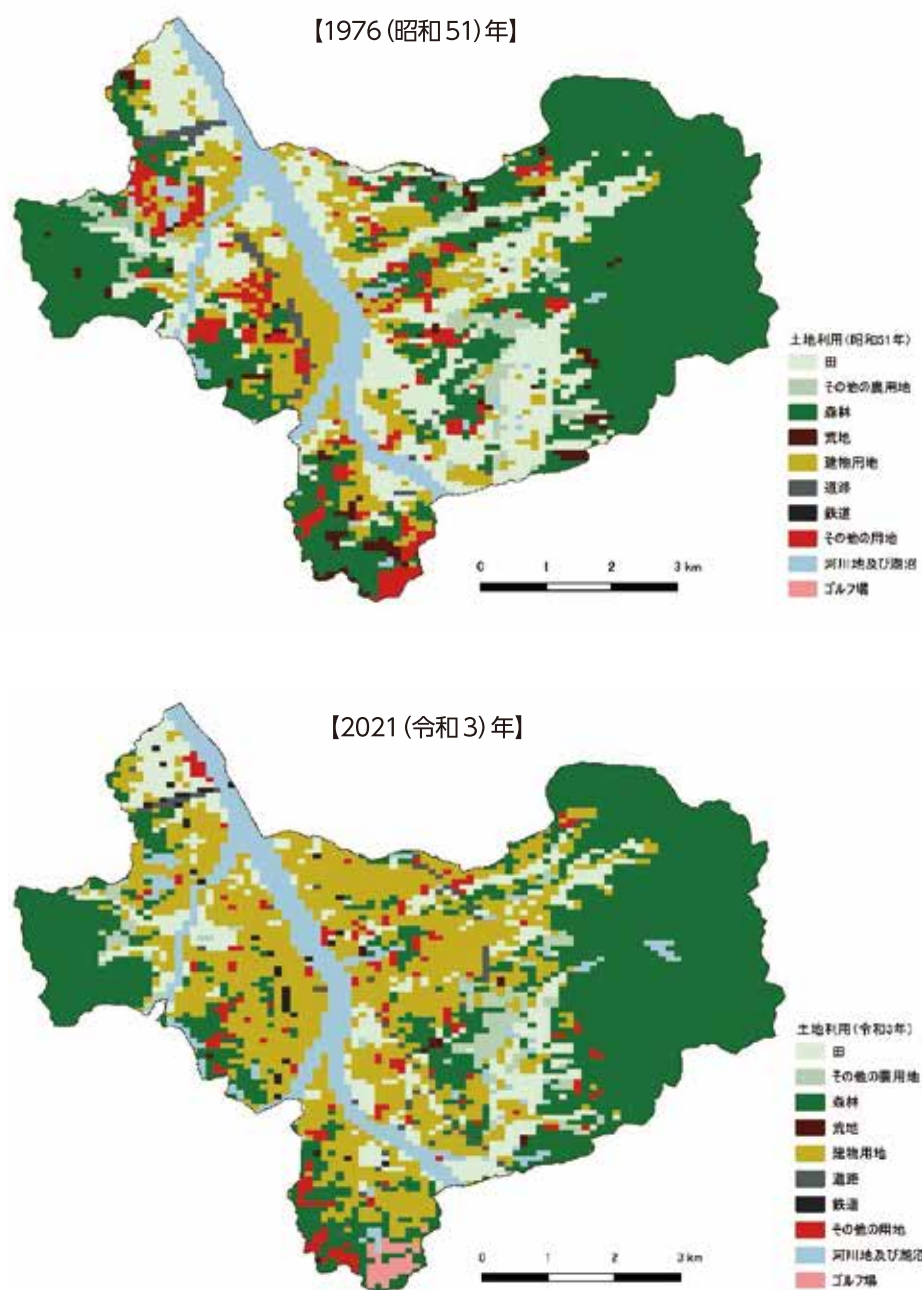
本市の土地利用の状況をみると、宅地の割合が最も多く、次いで山林、田となっています。また、宅地は経年で増加傾向にあります。

図表 2-6 土地利用の推移



資料) 直方市「統計直方」

図表 2-7 土地利用分布

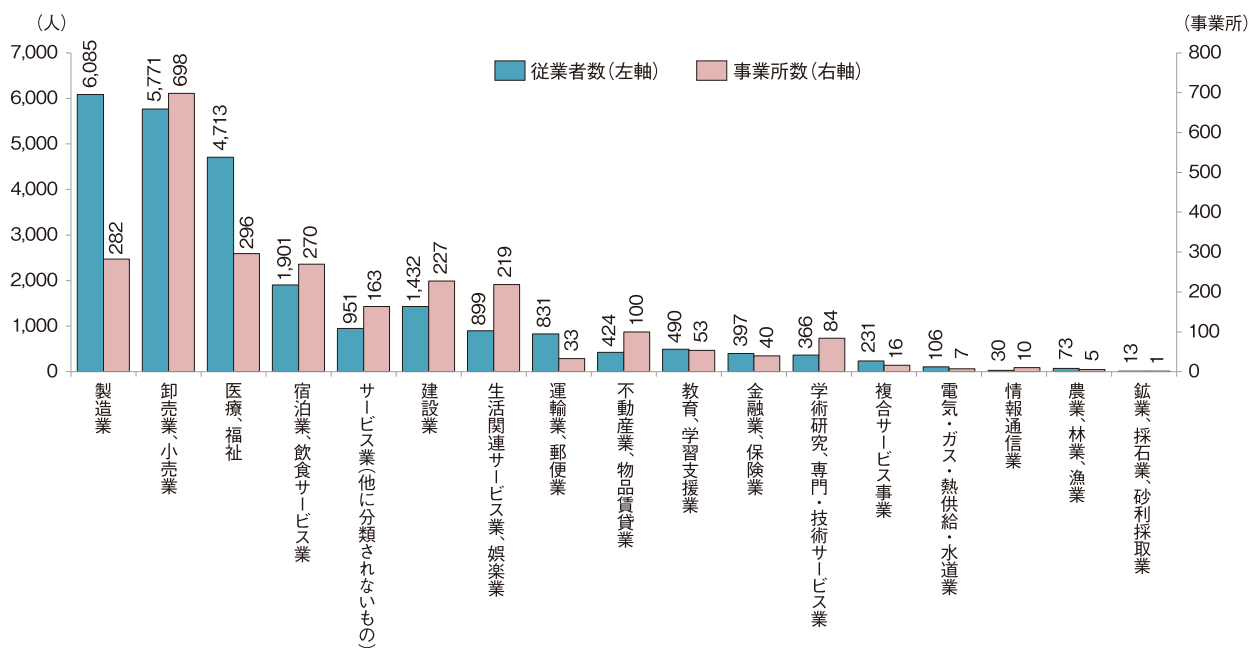


資料) 国土交通省国土数値情報ダウンロードサイトを元に作成 <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-L03-a.html>

## 4. 産業

本市の産業の特徴をみると、従業者数については製造業、卸売業・小売業、医療・福祉の順に多くなっています。一方、事業所数は卸売業・小売業、医療・福祉、製造業の順に多くなっています。

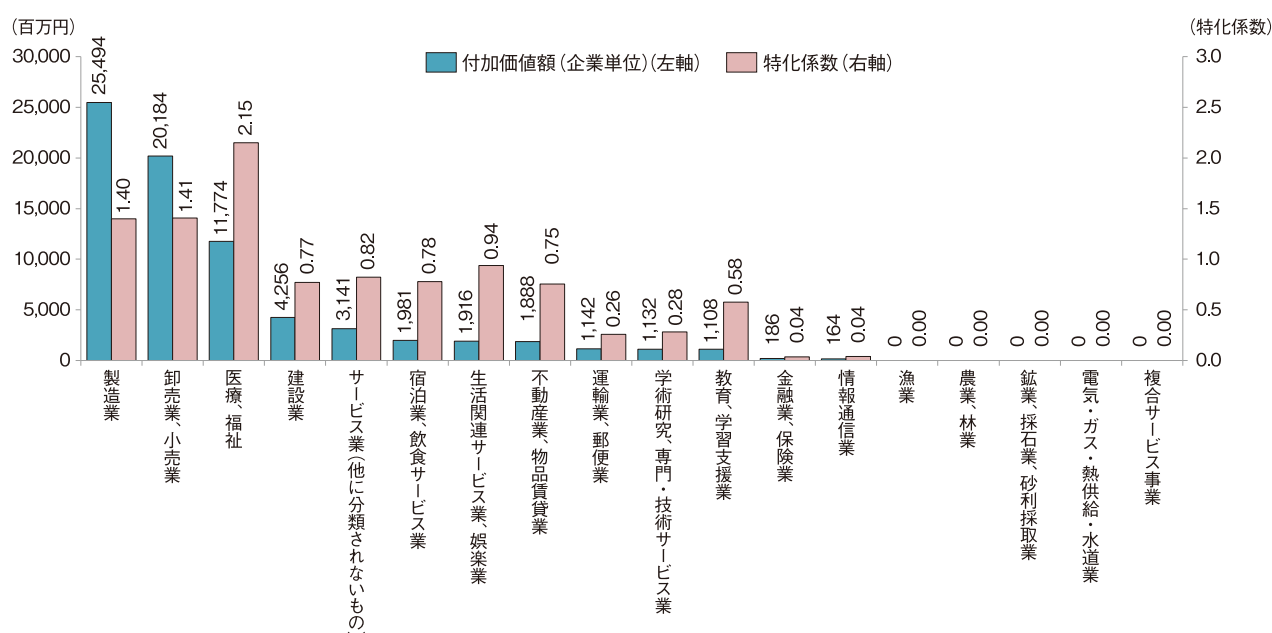
図表 2-8 産業大分類別 事業所数・従業者数 (2021(令和3) 年)



資料) 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」

また、産業分類別の特化係数を用いて、本市と全国の産業構造を比較してみると、付加価値額については、医療・福祉が2.15と特化係数が高く、特徴のある産業となっています。その他、特化係数が1を越えている産業は、製造業(1.40)、卸売業・小売業(1.41)となっています。

図表 2-9 産業別付加価値額特化係数(企業単位)(2016(平成28)年)



注) 特化係数とは、本市のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。  
資料) 総務省・経済産業省「平成28年経済センサス・活動調査」を元に作成